

学習の流れの例

- ① 平日はほとんど学校にいることから、地震発生時、学校に潜む危険は何か考える。
例) 理科室の薬品、調理実習中のコンロ等
- ② 各学校で定めている登下校の避難の方法を確認する。
- ③ 休日にはどんな危険が潜んでいるか考える。
例) エレベーターに閉じ込められる、遠方に遊びに行って徒歩で帰れない等

学習後の生徒の姿

自分の行動パターンを分析し、生活の中にどのような危険があるか自ら探し出し、それらの危険に備える心構えをもとうとしている。

このページの

指導案 ワークシート

はコチラから!

指導のポイント

ワークシートでは、1日の行動を円グラフで書き出すことで、視覚的にどの時間にどこにいるのかを把握する。1日の行動を振り返ったうえで、考えられる危険についてピックアップし、対策を考える。という流れで学習できるようにになっている。

普段、避難訓練で使用しない教室や特別教室で地震が発生した時、どのような危険が潜んでいるのかを、身を守れば良いのかを考えておくことで、発災時、少しでも慌てずに行動できるようにする。

学校によって教室の構造や種類、設置物が異なるため、ガイドに載っていない教室等も積極的に取り入れて考えさせたい。

●普通教室

- 戸棚、本棚、ロッカー等が倒れるおそれがある。
- 蛍光灯、時計、テレビ、壁等が落下するおそれがある。
- 暖房器具の倒壊による火災発生の危険がある。
→倒れたり、落下したりしない場所へ速やかに避難する。
→避難のタイミングを逃した場合は、机の下にもぐったり頭部を保護する。

●理科室

- 薬品棚が転倒し、薬品が散乱するおそれがある。
- 棚の近くに座っている生徒はただちに棚から離れる。
→アルコールランプやガスバーナーが倒れ出火する。
→揺れがおさまってから火を消し、ガスの栓を閉める。

●家庭科室

- 調理実習中の沸騰した湯や火で火傷するおそれがある。
→倒れてこない場所へ速やかに避難する。
ガス漏れによる火災発生のおそれがある。
アイロンによる火災発生のおそれもある。
→ガスの元栓を閉め、電源を抜いて火災の原因をなくす。

参照：福岡県教育委員会「教師用指導資料 防災教育 地震」

私たちの1日に潜む危険

地震が起きたときにいる場所・時間など、状況によって危険は異なります。そのときにあわてないよう、事前に危険箇所を把握することが大切です。

めあて 生活の中にどのような危険があるか把握し、備える心構えをもつ。

◆自分の行動パターンを分析

自分がいる場所にはどのような危険が潜んでいるのでしょうか。学校の日と休みの日、それぞれの24時間をふり振り返り、書き出してみましょう。

学校にいるとき

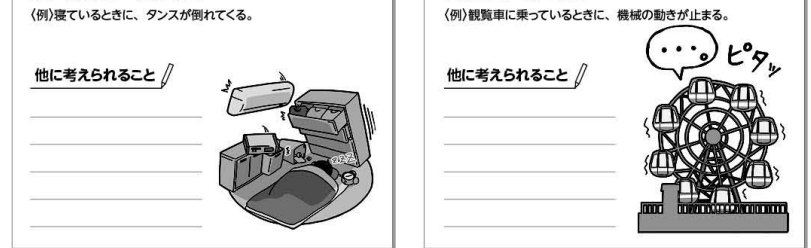
〈例〉普通教室にいるときに、照明が割れて破片が落ちてくる。
他に考えられること //



平日



休日



自宅にいるとき

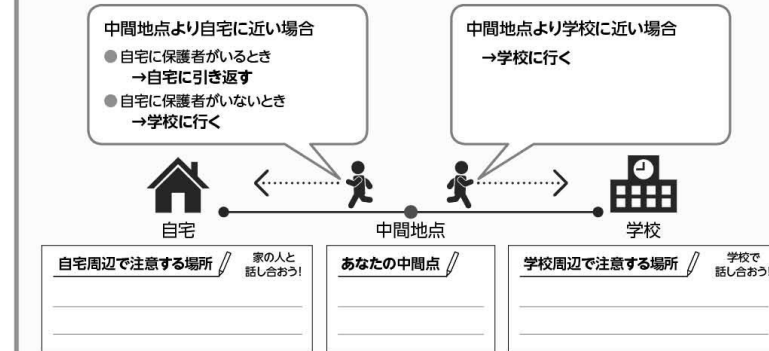
〈例〉寝ているときに、タンスが倒れてくる。
他に考えられること //

外出中のとき

〈例〉自転車に乗っているときに、機械の動きが止まる。
他に考えられること //

① 登下校中に地震が起きたら

まず、倒れてくるものや落下物から命を守る行動をとりましょう。次に、近い場所に避難しましょう。



自宅にいるとき

自校の区や地域が震度5強以上ではなくても、横浜市内のどこか一地点でも震度5強が観測されたときは、登校の必要はありません。

学校にいるとき

帰宅は保護者への直接引き渡しを原則とします。生徒は勝手に家に戻ってはいけません。保護者と連絡がとれないときは学校で待機します。

登下校のとき

〈例〉ブロック塀が倒れてくる。
切れた電線には電気が流れているおそれがある。
他に考えられること //



●自宅にいるとき

⇨本教師用解説書 [3] ページ、[6] ページ

●外出中のとき

⇨本教師用解説書 [3] ページ、[5] ページ